

ロープのおこう側

5月6日(土)～7日(日)で、大菩薩嶺から小金沢連嶺を歩いて来た。6日は週間予報で雲と傘のマークがついていた。4月29日から始まるゴールデンウィーク、前半は天気も良く多くの登山者が山を賑わせたようだ。たっぷりと休日が続くので、予報の芳しくないゴールデンウィーク最終の二日間、山に出かけることもあるまいと考えた人が多かったようで、登山者は少なかった。そこを狙っての山行計画だった。

6日、甲斐大和発9時50分のバスで上日川峠へ上がる。登山者が少ないといっても、峠周辺の駐車場はほぼ満杯だった。10時45分歩き始める。福ちゃん荘まで25分とあるところ、30分かかった。まっいい、時間はたっぷりあるんだからゆっくり歩こう。唐松尾根を登って雷岩に出、嶺を往復して介山荘泊というのが本日の予定だ。

唐松尾根を登り始めると、下山パーティとすれ違う。ぼくが先頭で登って行く。ぼくが見えているはずなのに、下ってくる人は避けようともせずぼくにむかってくる。ぼくが立ち止まらないので、不満そうな顔をしてぼくの目の前で立ち止まる。「登り優先」は登山のルールではないが、登山者同士の思い遣りといっていいものではあるまいか。どちらかが避けなければならぬのだから、体力的に楽であるはずの下山している側が道をゆずるのが自然のふるまいであろう。

もちろん、「登り優先」が分かっている登山者の方が、分かっている人よりずっと多い。ぼくが登って行くとさっと避けてくれて、「どうぞ」と声がかかる。ただ、ぼくが現役の頃と比べると、分かっている人が目立つ。

昔、山岳会は登山学校として機能していた。昨今取りざたされている山岳会の衰退が、登り優先が分かっている登山者とか、陽が暮れるのは自明なのに午後からのんびりスタートする登山者を産み出しているのではないかと、気になって仕方ないのである。

雷岩に抜ける。富士山は上の方が雲の中だが、予報に反してまずまずの好天。あちこちで登山者がお弁当を広げていた。そのうちの何組かは、ロープの向こう側で。

嶺を往復して介山荘に下る。オーナーの益田真路さんと久々のご対面。「どこから来ました」「甲斐大和からバスで、便利になりましたね」「ほんとに助かります。昨今の若い子は、車を持たない子も多いのでバス利用が増えているんです」。

いつだったか週刊誌で、最近の若者の傾向を取り上げていた。彼らは「恋をしない、酒を飲まない、車を持たない」と、記事にはある。ぼくはびっくり、「へえっ」と思ったことを記憶している。

「車を持たない」が、バス利用の増加に結びついてくるとは、益田さんの指摘で初めて知ることができた。

2017年5月6日、とりとめもないが、あれこれ考えさせられたいい一日であった。